

福島鑄郎コレクションをひらく

20世紀メディア研究会百回記念

企画展

早稲田大学早稲田キャンパス
大隈タワー 125 記念室 (大隈タワー 10F)

9月18日 木 — 9月21日 水

(但し、18日を除く日曜・祝日は休館)

10:00 ~ 18:00 ● 入場無料

「雑誌に見る占領期 — 福島鑄郎コレクションをひらく」記念シンポジウム

9月18日 13:00 ~ 17:00 | 会場 早稲田キャンパス3号館305号室

早稲田大学現代政治経済研究所 20 世紀メディア研究所主催 / 早稲田大学スーパーグローバル大学創生支援事業「国際日本学拠点」後援
早稲田大学文化推進部文化企画課協力 / 早稲田大学図書館協力



権木雄九郎に見る占領期

福島鑄郎コレクションをひらく

20世紀メディア研究会百回記念



福島鑄郎氏 (1936-2006)

在野の 占領史研究者が 遺した希少 雑誌の宝庫

日本が敗戦を受け入れた1945年9月から、独立を回復する1952年4月までの約6年8ヶ月間の占領期は「雑誌の時代」だった。当時のメディアといえば、新聞は表裏2頁しかなく、ラジオの受信機はまだ高級品で、写真や映像は白黒が主だった。それに対して雑誌は、紙不足で粗悪な仙花紙を用いた薄っぺらな冊子も多く、また占領軍の検閲下にあったが、各地で多種多様な雑誌が制作出版され、色あでやかな表紙や風刺に満ちた漫画など、人々の生き生きとした自由な表現に満ちていた。これらの雑誌の価値を、福島鑄郎氏は庶民の視線から見だし、嗅覚鋭く拾い集めた。彼が生涯かけて収集した六千冊以上のコレクションの一部を今回、20世紀メディア研究会百回記念企画として、公開展示する。その中には、カストリ雑誌をはじめとして、国会図書館や占領期検閲資料で有名なメリーランド大学プラング文庫に所蔵されていない雑誌も少なくない。ぜひ当時の雑誌を直に見て、占領期という戦後の原点を改めて再発見していただければと願う。

「雑誌に見る占領期 — 福島鑄郎コレクションをひらく」記念シンポジウム

日時 9月18日(日) 13:00 ~ 17:00 会場 早稲田キャンパス3号館305号室

第一部

- ① 山本武利 (早稲田大学名誉教授) 「20世紀メディア研究所と占領期研究」
- ② ルーズ・ヤング (ウィスコンシン大学) 「新世紀における占領期再考」
(Rethinking Occupation History in the New Millennium)
通訳: 鈴木貴字 (東邦大学)
- ③ 宗像和重 (早稲田大学) 「福島コレクションの由来」

第二部

- ④ 石川巧 (立教大学) 「カストリ雑誌研究の現在」
- ⑤ 三谷薫 (出版美術研究家) 「占領期の少女少女雑誌: 絵物語を中心に」
- ⑥ 土屋礼子 (早稲田大学) 「占領期の時局雑誌」

入場無料・予約不要

司会・川崎賢子 (日本映画大学)

